

踏み跡 <My Mountains>

八ヶ岳	渋ノ湯から高見石	No.150
-----	----------	--------

昭和45年4月20日

加藤からの誘いで、三越の北八ヶ岳山行に便乗。もっともこの山行の企画に参加しているので便乗というほどに遠慮することもないのかもしれないが。

今回も加藤は愛車を我が家の脇に駐車して、一緒に立川から終列車に乗車。

日曜日の夜行列車はガラガラでゆっくり寝ることができて良い。

茅野着5時43分。一番バスを待つ一時間余りの時間を利用して味噌汁を作り、握り飯の朝食。

バスは6時55分発。空は、もう雨を待つばかりという感じの暗さで、我々もそれを承知、覚悟の山旅。

4月も下旬となると渋ノ湯にはもう雪は残っていない。路傍の小草などもそろそろ緑色の若葉を用意し始めている。ところが、高度を上げて行くほどに冬へ戻されていく。これが4月の山の特徴だろう。

黒百合平まで来ると小屋の前の緩斜面は白い板を立て掛けたような残雪。

昼食と数枚のスケッチとでゆっくり休憩を取ると、もう霧雨がハイマツを濡らし始めた。

童心に帰ったそり遊びの後、高見石を回って下山。

「あの辺に白駒の池が見えるはずだな～」

高見石でのひとときは、霧の水滴をまつ毛に付けながら白駒ノ池が見えたつもりで終わり。

濡れたくないの一心から、下りは枯れ葉や腐った木の根に何度か足を取られながらノンストップで。

渋ノ湯に着く頃にはもう雨は本降りになっていた。

東京ではもう桜が終わる頃、渋ノ湯の春はまだこれから。そして黒百合平の春はまだ雪の下に疼いているだけだった。

以上



黒百合ヒュッテをスケッチ